

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム  
実施状況および成果(広報用)

|                     |  |  |
|---------------------|--|--|
| プログラム名              | 「ドイツ環境ゼミ」:環境マインドをもったグローバル人材育成のためのドイツ視察研修プログラム  |  |
| 学部・研究科名             | 全学教育機構   |  |
| プログラム実施期間           | 2019年 2月 16日～ 3月 11日   |  |
| 研修先(国・都市・施設名)       | ドイツ:レーゲンスブルク、ハノーファー他   |  |
| 参加者数: 5名            | 知の森からの支援者 : 5名   |  |
| プログラム概要<br>(400字程度) | 2月16日:羽田～ミュンヘン<br>2月17日:ミュンヘン(市内視察)～レーゲンスブルク<br>2月18日～3月1日:語学研修(於:Sprachschule HORIZONTE)<br>(語学研修期間にも、市内施設の団体視察や南ドイツ各地の個人視察を行った)<br>3月2日～5日:個人研修(個人視察)<br>3月6日～8日:団体視察(ハノーファー市及び近郊)<br>3月9日:フランクフルトへ移動および市内視察(帰国フライトの前泊)<br>3月10日～11日:帰国(機内泊) |  |

実施状況・成果

- 1) 語学研修(2週間の語学コース)  
レーゲンスブルクにあるホリゾンテ語学学校にて2週間のスタンダード・コースに参加。各自の語学能力に合ったクラスに分かれ、実践的なドイツ語運用能力の向上につとめる。期間中は、(ホームステイの手配ができなかったため)全員が学校の寮に滞在した。  
空き時間や週末は、各自のテーマに従ってレーゲンスブルク市内・近郊や他の都市に足を延ばし、部分的には教員が引率して環境関連施設や博物館などを視察・見学した。
- 2) 個人研修  
各自のテーマに従って出発前に(指導を受けつつ)作成した計画を修正しつつ、各自あるいはグループでドイツ国内を回って視察を行った。
- 3) 団体研修(ハノーファー市内)  
本学の卒業生でもありドイツ在住で主に環境をテーマとしたジャーナリストとして活動している田口理穂氏と、ライプニッツ大学ハノーファーのフランク・レンツ教授のサポートによって、ハノーファー市内及び近郊の各所を視察した。訪問したのは、次の各所:  
3/6:ハノーファー市内の文化・歴史視察、ライプニッツ大学ハノーファー訪問(レンツ教授の講義を含む)、学生や一般市民との交流会  
3/7:学校生物センターとハノーファー清掃局の訪問(プレゼンテーションや模擬授業、リユースカップの説明)  
3/8:エネルギー自給村Flecken Steyerberg訪問(村長自らのプレゼンテーションと案内)

学生の声① - 繊維学部 学生

ドイツ環境ゼミでは、日本とは文化も人種も全く異なるドイツへ行き、約三週間、語学と環境について学びながら過ごした経験はとても新鮮であった。語学面では、学んだドイツ語を使う機会が多くあった。日本語でも英語でもない言語で相手とコミュニケーションをとることはとても難しかったが、それでも頑張ってドイツ語を話すと、相手もそれに合わせてきてくれ、明らかに嬉しそうに接してきてくれた。この辺は世界共通なのだと感じた。また環境面では、なかなか行くことができない場所へ行き、このゼミのために貴重な話を聞けたことが良かった。特に「環境」に対するドイツ人の考え方が自分なりに分かったことが一番の収穫だと感じた。短い期間であったが自分で調べ、考え、行動に移す、などと自分自身を成長させてくれる良い機会であった。

学生の声② - 教育学部 学生

今でもあの頃は毎日が充実していたなと感じるほど濃い経験をする事ができました。多国籍の友だちが集う語学学校や壮大な風景、異文化、町並みなど普段経験できないことだらけに囲まれたなかで、自分には何が出来るのかを挑戦し続けた三週間でした。特に、個人研修では日本ですらしたことのない大移動や一人歩きで、毎日ワクワクドキドキで新しい自分と向き合えた気がします。環境教育というテーマをドイツ流に経験し、自分の中でかみ砕いて吸収できたこと、挑戦の日々で得た自信はかけがえのないものとなっています。たくさんのお会い、新たな発見、刺激的な日々を送ることができたドイツ研修に感謝しています。

エネルギー自給村  
フレッケン・シュタイアーベルク村にて



ハノーファー 学校生物センターにて

